

オートメーション新聞

-ものづくりを応援する専門紙- Automation News

発行所: ©株式会社アベルガ オートメーション新聞社 〒231-0023 横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル TEL: 045-228-8873 FAX: 045-345-4790

不可能を、可能に—それが、SICKのセンサインテリジェンス。

SICK

Sensor Intelligence.

本社: 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー13F TEL: 03-5309-2115
URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

灯台

先日「ロボット×デジタル」とい
った先進技術を活用して遊ば
う」といふ、ちょっとしたお遊び
企画に参加してきた。主催はソニ
ーインターディバウエーティ
ングス(SIE)とテンソル、
チームクロスFA。企画は、テン
ソルの産業用ロボットをベースに、チームクロス
FAの一員でロボットなどをある「SIE」が構築
したロボットシステムで、SIEのギューパー型ロ
ボットトイを使ってボーダーゲームを遊んでし
まおうというもの。ブレイヤーは遠隔地で指揮を
出し、カードめぐらやコマを動かす作業はロボッ
トにおまかせ。コロナ禍で遊びなければなら
ない、いろいろとペレレハがんばるこんな時だ
らこそ、バカバカしいことを真剣にやって楽しも
うというコンセプトをもつた▼ブレイヤーとは別
に、現場にはゲームロボットシステムを担当す
るSIEとJSSのエンジニアが詰めていた。
かたやSIEはゲーム・デジタルエンターテイ
メントの会社だけあってカジュアルな服装でゲー
ムの進行を観覧し、一方のJSSはメイカーラー
く、そのいの作業着(作業帽+身を包み、ロボ
ットの動きや現場の姿を監視)。ロボットを使っ
て無人でゲームを楽しもうと言ひながら、裏では人
が支えているという至極軽妙なお遊び企画なら
ではなかった。それでも相手分野や領域が異なる若
手技術者が、お互いの技術を持ち寄って楽しもう
に企画に参加している姿はとても印象的だった。
自分の技術が生かせぬ場があと、こんなに若者
はイキイキとするのだから心地よい感心した▼製
造業界は、技術領域が広く、情報は日々アップデ
ートする。どれだけ技術が進化しても新しい知りたい
ことが出てき、知的好奇心を養はせてくれる。
自らの技術が生かせる場所がたたくさ
りあり、多くの人を巻き入れる土壤がある。製造
業はそんなフィールドだ。人手不足と確実化が日
本製業の課題と云われて久しい。それを打ち破
るためにももっと多くの若者の方が必要だが、彼
らが入ってくる、定着しないのは、そこに「樂
しさ」がなく、彼らを生かせないからに他な
らない。「人は若虫、人は城」とよく言うが、未
來を作り、長く支えるのは若者。彼らを生か
し、次の世代バトンを渡すのが年長者の役目。
製造DXも大切だが、まずは若者を生かす、彼
らが楽んで活動できる場づくりを真剣に考えな
ければいけない。